

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花房 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能、思考力・判断力・表現力全ての内容項目において、平均正答率が全国を上回っており、学力が育っていることが見られた。
	よくできた問題	送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく書き表す問題。目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する問題。
	努力が必要な問題	書くことに関する力を問う問題。文章の種類とその特徴について理解しているかどうか判断する力を問う問題。

算数	全体的な傾向や特徴など	「変化と関係」に関する内容については、正答率が全国とあまり変わらない結果が得られたが、「図形」に関しては、全国と比較しても他の内容領域と比べても不十分であった。
	よくできた問題	伴って変わる2つの数量について、表から変化を読み取り、知りたい数を求める問題。
	努力が必要な問題	図形を構成する要素に着目して、正三角形や正方形の意味や性質について理解する問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きなど生活習慣が整っている児童が多いが、家庭学習時間を十分に確保できていない傾向がある。 ・自己肯定感が高く、将来への夢や希望をもっている児童が多い。 ・学校が楽しいと感じている児童が92%以上であり、友達と協力したり相談しあったりして生活することによさを感じている児童が多い。 ・他人への思いやりの心、いじめを許さない心が十分に育っている児童が多い。 ・学校や先生への信頼感が強い児童が多い。 ・各教科等の学習場面で、自分の考えを持ち、課題に向かって解決する学習に取り組んでいると感じている児童の割合が高い。 ・感染予防の中で、「話し合う」活動が制限される面もあるが、児童の多くが、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている。話し合い方の工夫や考えの交流の仕方を工夫していることが考えられる。 ・算数は、多くの児童が勉強することに意義があり、楽しいと感じているが、全国と比較して平均正答率が低い結果が出ている。「わかる」「できる」授業の創造等、学力を高める取組が必要であると考え。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の書くことの力を伸ばす指導については、資料を正しく読み取り分析する活動、読み取ったことを課題に沿ってわかりやすく説明したり自分の考えを書いたりする活動、友達の書いた内容を読み合い話し合う活動などに取り組むようにする。 ・算数科では、図形の意味や性質についての理解が深まるような授業展開を仕組んだり、(2位数)÷(1位数)の筆算の筆算について、図を活用しながら商の意味を考える力が身に付くように指導したりする。 ・GIGAスクール構想の推進、ICTのさらなる有効活用を通して、主体的に教材とかかわったり、様々な情報や自分の考えを伝え合ったりするようにし、効率的に学力を高める。 ・感染症には十分に配慮しながらも、直接体験したり、調べたり、考えを伝え合ったり、表現し合ったりして、交流する活動を生かすことによって、思考力・判断力・表現力を養うようにする。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、早寝・早起き・朝ごはんを守って、生活習慣が規則正しく身に付くように保護者への理解、協力をよびかける。 ・各家庭と連携し、学年の数×10+10分を目安に家庭学習時間の確保をめざす。 ・スマホ、ゲームを適切に使うこと、時間の制限を考えて使うこと意識を高め、保護者との連携を図る。
--